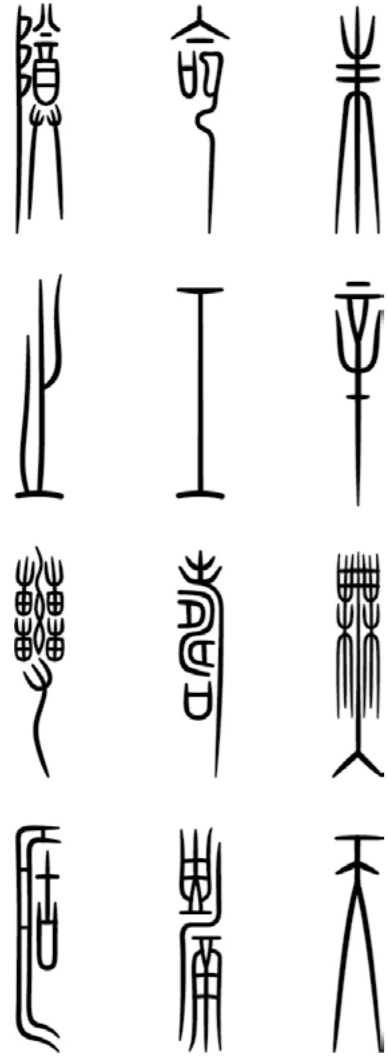


金文書体の字形分析——書体デザインの視点から

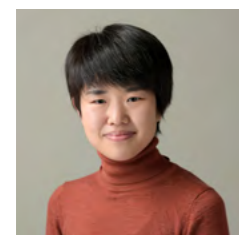
デザイン学科 高城 光 TAKASHIRO Hikari



本研究の最終目的は列国金文書体、特に蔡国金文をモデルとした書体デザインと、そのプロセスの言語化である。

列国金文書体は、春秋戦国時代以降に中国大陸各地で多様化した金文書体の総称である。金文書体の一般的なサンプルは拓本として流布しており、墨色と白色の引き締まった印象に書体そのものの印象が影響を受けやすい。年月による劣化も資料の風合いを増し、それらの印象が書体の特徴かのように受け止められる傾向がある。本来の字形そのものの特徴を書体として再現するためには、資料に表れた形態の解釈と、特徴の編集・再構成が必要である。本研究では、この過程を可能な限り言語化し、書体の特徴と形態の関わりを明示することを試みている。

今回の発表では、モデルである「蔡侯尊」「蔡侯盤」の文字の点画を再解釈し、字形と字画の様式化を経て、書体デザインに蔡国金文の特徴をどのように再現可能か検討した。様式を適用した基本の12文字とそこから拡張した27文字をサンプルとして公開する。



2013年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。同大学グラフィックデザイン学科助手を経て、2018年より東京工芸大学芸術学部デザイン学科助手。

大学在学中よりタイポグラフィ研究を始め、言葉を「読む」と形を「見る」とことによる文字の伝達機能の総体について、金文書体、篆書体の字形を通して研究している。

日本デザイン学会、芸術工学会、日本漢字学会会員。

書体デザインのモデルとしての蔡国金文

列国金文をモデルとした書体デザインを行うにあたり、『殷周金文集成(修訂増補本)』(中国社会科学院考古研究所, 中華書局, 2015)から、モデルとなる銘文を選定した。

蔡国金文は、次の条件から、書体のモデルとして適当である。まず、製作国が明らかであり、書体のモデルとして参照すべき器物が明確である。次に、解読された字種数が多い。長文銘の器物が複数発見されており、文字同士を比較しながら共通点を抽出するのに適している。そして、造形の様式化の度合いが高い。

書体デザインの視点から見た蔡国金文の特徴

字数の多い「蔡侯尊」「蔡侯盤」から、12種類の字を選び、形態の様式化を試みた。12種のサンプル作成から、蔡国金文の特徴を次のように結論づけた。

プロポーション

極めて縦長であり、おおよそ3~5:1である。画数の多い文字は横幅が広がる傾向がある。

重心

高い位置にあり、目視の限りでは上から3分の1あたりにある。

字画の形

直線的な長脚の印象が強いが、縦画はゆるやかな曲線を描く。横画はほぼ直線である。

字画の抑揚

ほぼ均質であるが、屈曲点がやや太る。

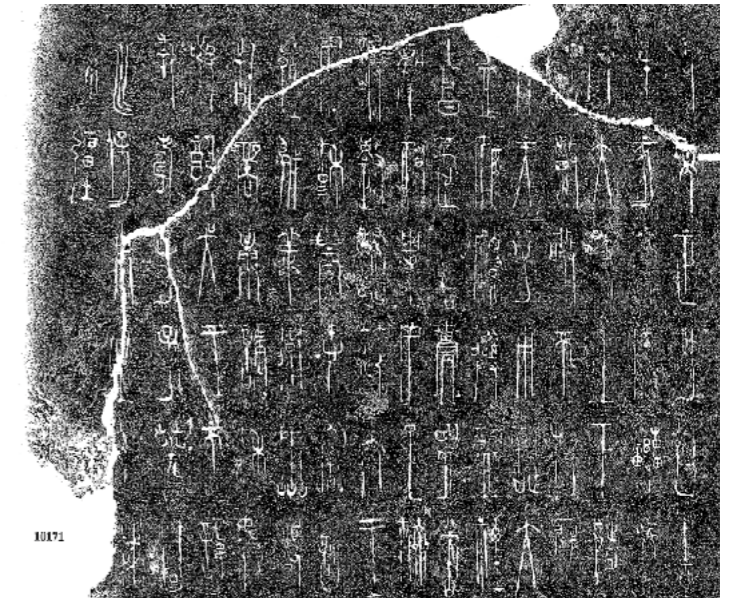
字画の端点

尖っているものが多く、字画の先端は細くなると推測される。しかし、素材の劣化が拓本に表れたことによる可能性もある。

基本の字種からの展開

こうした過程を経て、蔡国金文は縦長のプロポーションとすっきりと上下に伸びた字画が特徴と言えると結論づけ、その印象の再現を念頭において字種数を拡大した。

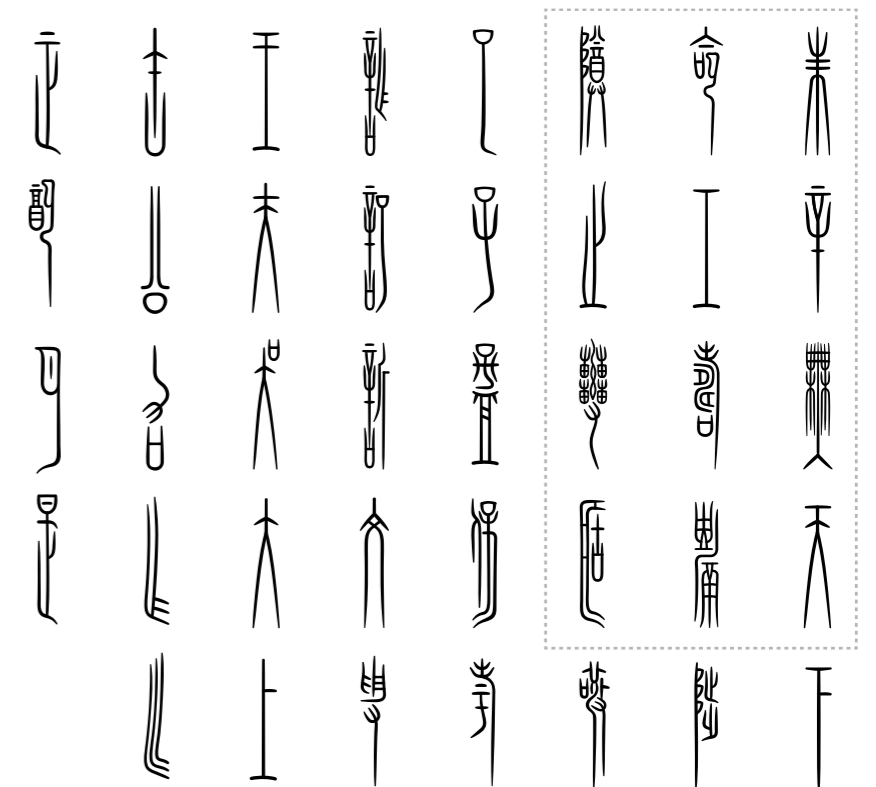
一見直線的な近くの印象とは裏腹に、複数字種へ蔡国金文の印象を再現する過程では、柔らかく曲がった線を多く発見した。蔡国金文は曲線と直線が共存する書体といえるのではないかと。今回製作したモデル書体では、字画そのものの形と抑揚のコントロールによって、すんなり伸びるまっすぐな字画の印象を、曲線によって再現することを試みている。



「蔡侯尊」銘文(殷周金文集成より)



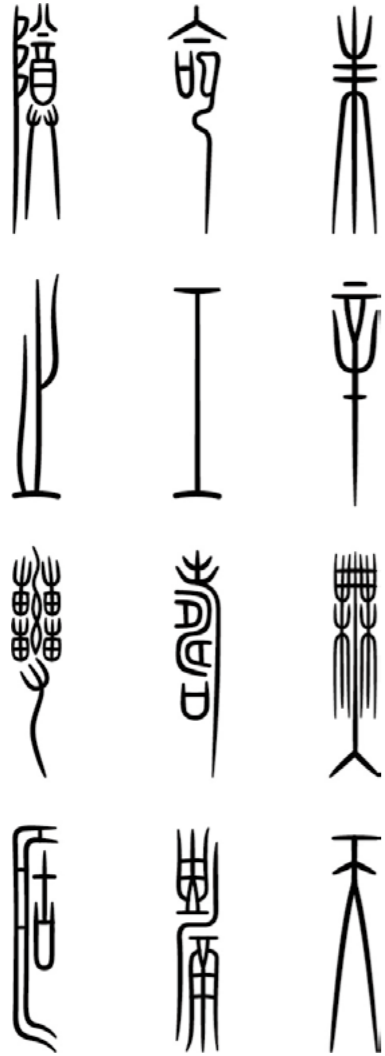
蔡国金文の特徴(左より、「命」「陟」「月」)



展開後の蔡国金文書体サンプル(点線内は基本となる12字種)

Character Style Analysis of Bronze Script Calligraphy: From the Viewpoint of Typeface Design

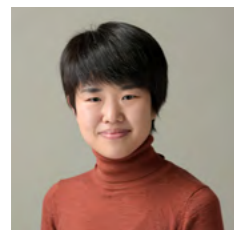
Department of Design TAKASHIRO Hikari



The ultimate goal of this study is to design a typeface based on state (Eastern Zhou) bronze script, in particular the bronze script of the ancient state of *Cài*, as well as to verbalize the design process.

State bronze script is a general term for the styles of bronze script that had diversified throughout various parts of the Chinese mainland since the Spring and Autumn and Warring States periods. Typical samples of bronze script were circulated as stone rubbings, and the impression of the writing style itself was easily influenced by the firm impression of black and white. Deterioration over the years also increased the texture of the materials, the impression of which tends to be perceived as though it were a feature of the style. In order to reproduce the characteristics of the original shapes of the characters themselves as part of a typeface, it is necessary to interpret the forms seen in the materials and to edit or reconstruct their features. In this study, I am working to verbalize this process as much as possible, and to clarify the relationship between the typeface's characteristics and shapes.

In this presentation, I examined how the characteristics of *Cài* bronze script could be reproduced in the design of a typeface after reinterpreting the dots and strokes of model characters from inscriptions in a wine vessel and platter belonging to a marquis of *Cài*, and stylizing their shapes and strokes. 12 basic characters to which the style has been applied, and 27 characters expanded from those, are presented as samples.



MA in Design major (Graphic Design), Tama Art University (2013).
 Assistant of Tama Art University Graphic Design Department (Apr 2013-Mar 2017).
 Assistant of Tokyo Polytechnic University Design Department (Apr 2018-Present).
 Study on typography. Analysis of non-verbal communication through typefaces and calligraphic style specializing in bronze inscriptions of ancient China.
 Member of Japan Society for the Science of Design (JSSD), Society for Design and Art Fusing with Science and Technology (SDAFST), and Japan Society for Cultural studies of Chinese Characters (JSCCC).

書体デザインのモデルとしての 蔡国金文

列国金文をモデルとした書体デザインを行うにあたり、『殷周金文集成(修訂増補本)』(中国社会科学院考古研究所, 中華書局, 2015)から、モデルとなる銘文を選定した。

蔡国金文は、次の条件から、書体のモデルとして適当である。まず、製作国が明らかであり、書体のモデルとして参照すべき器物が明確である。次に、解読された字種数が多い。長文銘の器物が複数発見されており、文字同士を比較しながら共通点を抽出するのに適している。そして、造形の様式化の度合いが高い。

書体デザインの視点から見た 蔡国金文の特徴

字数の多い「蔡侯尊」「蔡侯盤」から、12種類の字を選び、形態の様式化を試みた。12種のサンプル作成から、蔡国金文の特徴を次のように結論づけた。

プロポーション

極めて縦長であり、おおよそ3~5:1である。画数の多い文字は横幅が広がる傾向がある。

重心

高い位置にあり、目視の限りでは上から3分の1あたりにある。

字画の形

直線的な長脚の印象が強いが、縦画はゆるやかな曲線を描く。横画はほぼ直線である。

字画の抑揚

ほぼ均質であるが、屈曲点がやや太る。

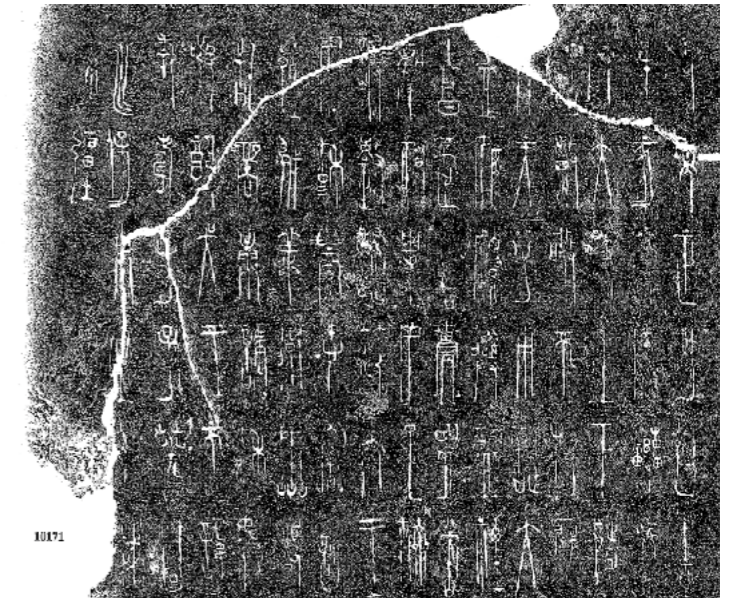
字画の端点

尖っているものが多く、字画の先端は細くなると推測される。しかし、素材の劣化が拓本に表れたことによる可能性もある。

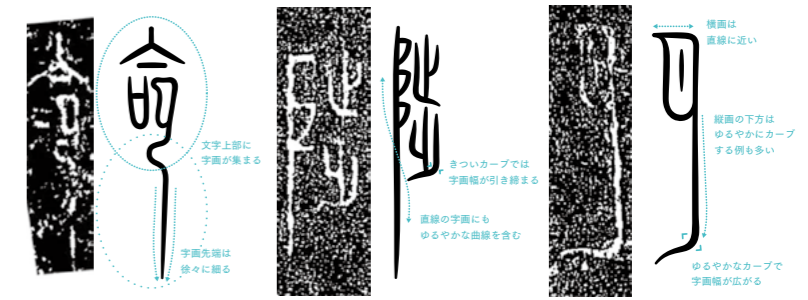
基本の字種からの展開

こうした過程を経て、蔡国金文は縦長のプロポーションとすっきりと上下に伸びた字画が特徴と言える結論づけ、その印象の再現を念頭において字種数を拡大した。

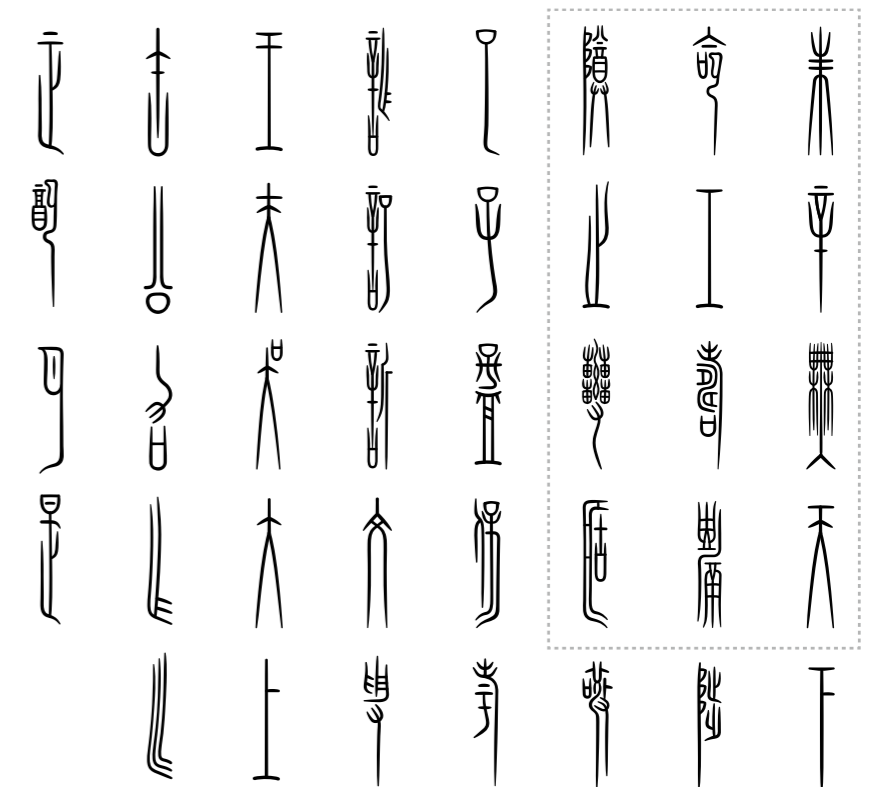
一見直線的な近くの印象とは裏腹に、複数字種へ蔡国金文の印象を再現する過程では、柔らかく曲がった線を多く発見した。蔡国金文は曲線と直線が共存する書体といえるのではないかと。今回製作したモデル書体では、字画そのものの形と抑揚のコントロールによって、すんなり伸びるまっすぐな字画の印象を、曲線によって再現することを試みている。



「蔡侯尊」銘文(殷周金文集成より)



蔡国金文の特徴(左より、「命」「陟」「月」)



展開後の蔡国金文書体サンプル(点線内は基本となる12字種)